

令和3年度  
金沢大学ステークホルダー協議会  
実施報告書

令和3年7月  
国立大学法人金沢大学

## 概 要

日 時：令和3年7月3日（土） 16:00～18:00

会 場：本多の森会議室〔金沢市石引 4-17-1〕

協議会：第一会議室，交流会：第三会議室

プログラム：

- 16:00 開会
- 16:03 学長挨拶
- 16:05 近況報告
- 16:20 意見交換
- 17:00 閉会
- 17:10～18:00 交流会

出席者数：104名

【内訳】（ ）はオンライン参加者で内数

学外：45名(12名)

卒業生 6名(2名)，高等学校 7名(1名)，  
自治体 4名(1名)，企業等 8名(2名)，  
地域 9名(1名)，保護者 2名(1名)，  
元事務職員 2名，国際交流関係 3名(1名)，  
経営協議会委員 3名(2名)，  
その他 1名(1名)

学内：45名（32名）

学生 22名(22名)，  
教職員 23名(10名)（事務スタッフ 13名）

学内列席者：14名

## ステークホルダーのご意見

### 意見交換

#### 地域関係

金沢大学が文部科学省「魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増」に申請するにあたり、自治体との関係性が非常に重要になってくるが、その関係性を深めるためにどういったことに取り組まれているのか。

#### 金沢大学の回答

「魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の特例的な定員増」の申請においては、エビデンスをしっかりと集める必要があり、地方自治体等の要望書や同意書等が含まれる。例えば、本学は観光デザイン分野で申請する予定のため、石川県、金沢市あるいは関係市町のほか、関係業界団体からも同意書や要望書をしっかりといただきたいと考えている。また、KPI（目標達成のための重要な指標）を立てる必要があり、実現可能な数値の設定を模索している。

レベルを下げずに地方に根付く人材をどう集め育てるか。その定着のためにも地域の皆さまと一緒に、受け皿を広げていきたいと思う。毎年金沢市や石川県、あるいは北陸三県に学生がしっかりと定着すれば、必ず人口の増加につながるというのが本学の信念である。観光デザイン分野を含め、いくつか想定しながら最終案を練っており、県や市にも様々な形で依頼をしている。私立大学にもしっかりと理解していただく必要がある。企業等とも連携をとりながら地域のニーズをしっかりとつかみ、それを先導できるような人材を輩出していけるかが地方創生の鍵だと思っている。

#### 学生

昨年はコロナ禍の影響でオンライン授業が開始されたが、現在では対面授業の方が多くなっている。医学類の3、4年生で、精神の不調をきたしやすい学生がいる。当該学生はオンライン授業の時は実家に帰って心を安定させることができたが、対面授業が再開して金沢に戻ると体調を崩している。対面授業はもちろん大事であるが、オンライン授業を選択できる仕組みはあるのか。

#### 金沢大学の回答

コロナ禍の影響で、従来は見られなかったメンタルの問題が多発しているのは承知している。その中で、授業の形態に関しては、対面授業とオンライン授業を学生の事情に応じて最大限に配慮している。また、リモート（遠隔対応）も含めた形でカウンセリングや相談を受け付ける体制も整えた。そうした状況を受け、昨年度は大学への登学禁止という状態が続いたにも関わらず、相談件数が例年より多くなった。

本学ではあらゆるチャンネルを総動員して学生のサポートに努めているため、遠慮せずに教員や事務部に何でも伝えてほしい。また、金沢大学では、教職員、友人の誰もが問題の入り口になって対処する体制「KUGS サポートネットワーク」を構築している。問題を抱えた人がいるという情報を確実に吸い上げ、専門家を含めたチームで対応している。どこかの部

署や窓口に行く必要はなく、とにかく一番近いところにあらゆることを伝えていただきたい。  
宝町キャンパスには、金沢大学保健管理センターの分室がある。保健管理センターの役割はコロナ禍で非常に大きくなっており、メンタルも含めたフォローアップを大切にしている。また、プライバシーにとっても配慮している。気軽なことでも最初は非常に相談しにくいものであるが、ぜひ保健管理センターに来訪していただきたい。

## 卒業生

コロナ禍の影響で生活に困っている学生に生活費の支援を実施したこと（金沢大学緊急学生支援金）は大変良いことだと思う。

- ① この制度を利用した学生の人数及び所属を教えてください。
- ② この制度をどのような形で広報したのか。

## 金沢大学の回答

- ① 「金沢大学緊急学生支援金」は、約 1,000 人の学生に対し、1 人当たり月額 5 万円を貸付している。支援を求める学生の属性に統一性や傾向はなく、学年や学域、学士課程、大学院課程、日本人、外国人留学生と様々な学生がいる。コロナ禍の影響で、生活に困っている学生とそうでない学生が大きく二極化していると感じている。
- ② 広報については、登学禁止期間の 2, 3 か月は大学ホームページで周知するとともに LMS（ラーニングマネジメントシステム）という全学生がアクセス可能なポータルサイトにおいて、学生全員にメールを送付してお知らせした。

## 卒業生

- ① 大学の運営費交付金の配分において、金沢大学は国が提示した「3つの重点支援の枠組み」のうち、世界トップ大学と伍して卓越した教育研究を推進する「重点支援3」を選択しており、これは学長のリーダーシップに基づくものと思っている。結果として、世界トップレベル研究拠点プログラムに採択され、ナノ生命科学研究所を設置したほか、ナノマテリアル研究所や先端宇宙理工学研究センターなどの開設につながっており、素晴らしい進歩である。あとは研究の成果・実績の積み上げを待つばかりであり、全学を挙げての積極果敢な取り組みに期待をしたい。
- ② 株式会社ダイセルから大きな拠出を受け、産産学学の共同研究体制において、バイオマスの世界的な拠点形成を目指す聞き、画期的なことだと思っている。連携の仕組みづくりに加え運用が鍵になると思うが、学長の意気込みや見通しをお伺いしたい。
- ③ キャンパスについて、緑豊かな治道景観を守ることが重要である。大学の事務当局は、近隣の耕作者あるいは土地所有者と連携しておくことが大事である。元々、大学のキャンパスを整備した際、市や県が協力し、「キャンパスには電線がない」ことがキャッチフレーズであった。それが、いつの間にかコンビニの近くに電柱が立って 20 年が経過した。今後、この電柱問題を解決しなければならないと思っている。
- ④ 大学への進入路は大事な場所だと肝に銘じてほしいと思う。全体を見渡すと金沢星稜大学や鳴和方面からのアクセスが十分でないように思われる。ここを整備すればもっと大学は便利になるのではないかと。県道清水小坂線からゴルフ場の横を通って金沢井波線に

至るルートとなるが、検討課題に加えていただきたい。

- ⑤ 1998 年から大学が自動運転の研究を始めて、高度モビリティ研究所ができるまでに進展し、自動運転の研究としては、国内のトップレベルにある。自動運転の実験を金沢の進入路である金沢井波線で実施し、地元で一生懸命やっているという意思を金沢市民に示すことも意味がある。学長の温かい、積極的なご配慮をお願いする。

## 金沢大学の回答

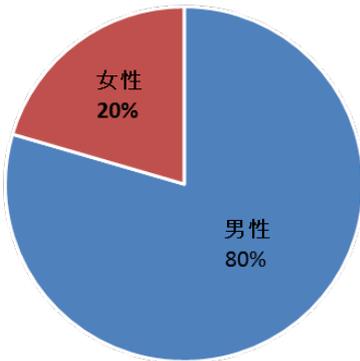
- ① フラグシップ研究所群を形成し、研究所、研究センターの強い研究分野をさらに強化し、日本あるいは世界のトップレベルにしたいと意気込んでいる。
- ② 株式会社ダイセルとの産産学学連携のための研究拠点は、多くの大学や企業等にしっかり理解いただき、柔軟に連携する仕組みを構築しようとしている。一例であるが、北陸地区の国立4大学が連携し、「北陸未来共創フォーラム」という組織を今年度中に立ち上げようとしている。特定の産業分野を強くするため、大学、企業、自治体及び公設試験研究機関がタッグを組み、1 つにはマテリアル分野で、セルロースやバイオリファイナリー、バイオマスサーキュレーションについてもテーマに取り上げようとしている。2 つ目は製造機械・電子部品分野である。この2 つが大きな産業だと理解している。しかし、第1次産業から第3次産業まで考えると、これから伸びしろがあるのはむしろ農林水産業と考えており、金沢大学はここを大きく伸ばしたいと思っている。さらに、ヘルスケアやスマートライフを伸ばすことも考えており、各大学と協働しながら「産業振興」「産業創成」「人材育成」を目指す。産業界のほか、公立大学、私立大学にも少しずつ参加いただきたい。重要な部分には金沢大学がしっかり関わり大学の成果にしていきたいと考えている。
- ③～④ 大学へとつながる道路の周辺環境について、景観が損なわれないような対応が必要である。併せて気になっているのは県道27号線で、道路の拡幅が必要ではないかと考えている。学生同士の事故が絶えず、自転車の路側帯ができて改善されたとはいえ依然として狭く、片側2車線で歩道も設けるべきだと思っている。また、朝晩、8,000名から9,000名の学生・教職員が通っているため、今後の道路計画は大事だと思っている。土砂崩れがあっても大学ではなかなか直せず、砂防ダムを作ってもらったり、がけ崩れを直してもらったりしている。そうした場所を拡張していくことも一つの方法だと思う。金沢星稜大学方面への道路の整備も、難しい課題ではあるが関係当局に働きかけていきたい。  
現在、学術研究開発都市構想をまとめつつある。金沢の学生数を6万人にすることを目指し、関係人口を20万人増やす計画である。金沢大学だけ大きくなるのではなく、この地域にある国立大学、公立大学、私立大学が一緒になって、金沢の魅力を活用しながら、大きな学術研究開発都市をつくっていきたい。この構想により、関係人口を増やし、学生の地産地消という観点も考えていきたい。
- ⑤ 自動運転について、珠洲市の他に石川県内では金沢大学の敷地から金沢駅西エリアにある通称50メートル道路の端までの実証実験ルートもある。実際、走行が難しい金沢駅周辺を通りながら自動運転自動車が走行実験を重ねている。一度、自動運転実証実験ルートを発表したい。

今は SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）事業にて、東京の湾岸道路でも実証実験を行っており、かなりの成果が上がりつつある。国の期待は大きいと思われ、研究所の人員増員の概算要求でも良い感触は得ている。少しずつではあるが、研究の規模も研究者の規模も大きくなっていくものと我々自身も期待をしている。

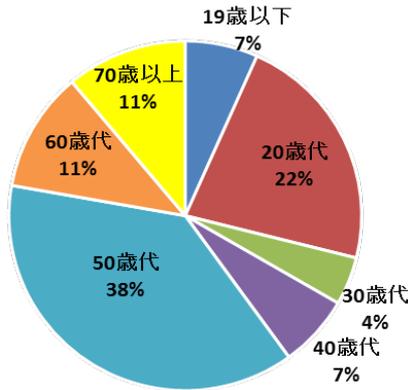
# アンケート結果

回収件数〔回収率〕：45件〔58%〕

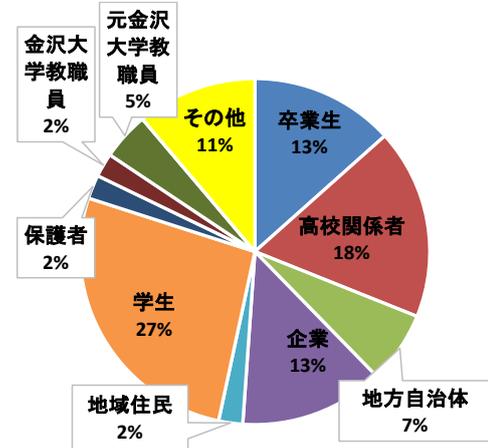
【1】性別



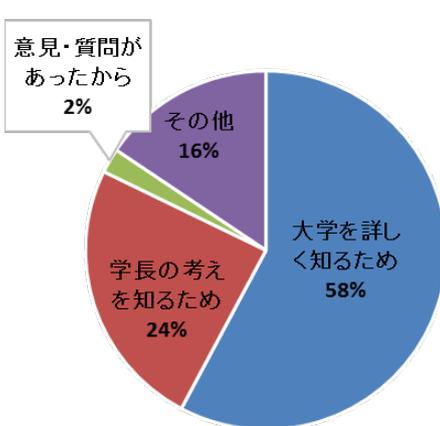
【2】年齢



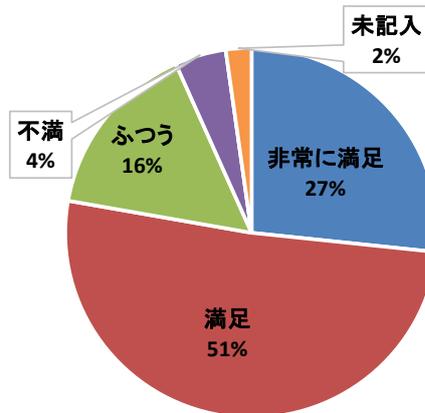
【3】大学との関係区分



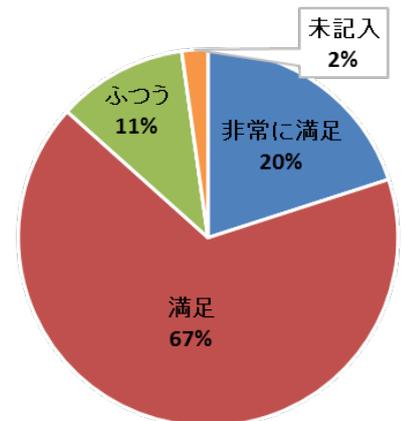
【4】参加目的



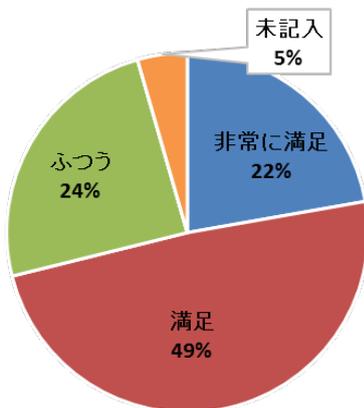
【5】近況報告について



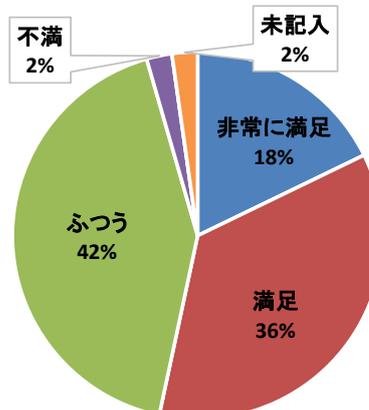
【6】配付資料について



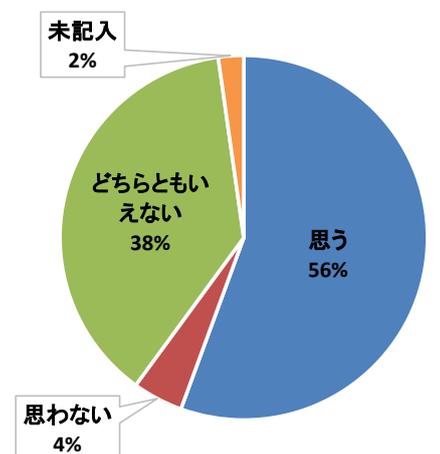
【7】質問への対応について



【8】進行について



【9】次回の参加希望について



## 【10】アンケートでいただいたご意見

### ①ステークホルダー協議会について

- ・山出元市長の発言は、自分では考えたこともないことだったので、勉強になった。
- ・大学について、普段通学しているだけでは分からないことを知ることができた。改めて大学が目指している姿を確認でき、今後の学業面や研究活動においてプラスになったと感じた。
- ・金沢大学の取組みと全体像がよく分かる協議会だった。
- ・多方面に発展する金沢大学の現状を知ることができ、有意義だった。
- ・この状況下でオンラインでも参加できたのは有り難かった。
- ・リモート発言者の顔が表示できないのは折角の Zoom 機能を生かしていない。
- ・発言時間の制限が必要。
- ・オンラインで参加したが、全体的に音声聞き取りにくかった（ほか同意見1名）。
- ・大学の運営面などについて知ることができる良い機会だったが、課外活動のことも少しは触れてほしかった。
- ・事前アンケートを集め、多くの意見・要望（ステークホルダー毎）のディスカッションを行っても有意義ではないかと考える（ほか同意見4名）。
- ・大学で実施してほしかった。

⇒金沢大学の回答：新型コロナウイルス感染の状況を考慮し、今回初めて対面とオンラインを併用したハイブリット型で開催いたしました。ご指摘いただいた、運営や進行の課題は、次回に向けて改善策を検討し、より良いステークホルダー協議会となるよう尽力してまいります。

### ②金沢大学について

- ・少子化で都市部への学生集中が起ころつつある。どんどん改革を進めてほしい。

⇒金沢大学の回答：地方創生に向けた取組を推し進めることは、金沢市や石川県、あるいは北陸三県に学生がしっかり定着し、人口の増加につながるという本学の理念のもと、今後も改革を進めてまいります。

- ・KUGS 入試において、共通テストの基準点が高すぎて出願資格を充足できないとか、一般入試でも合格できるほどの得点率であり、「多様な人材」を入学させ、大学活性化を図りたいとの意図と矛盾していないか、などの意見が現場（高校進路指導）で根強い。  
もう少し基準を下げてもらえないか。学力一辺倒の学生では活力がでないとする。  
「多様性」こそが日本を活性化させると信じている。KUGS というシステムが上手く機能することを祈っている。「序列からはずれたい」との学長の意図が現実化するよう祈念する。

⇒金沢大学の回答：KUGS 特別入試における共通テストの基準点については、一般選抜合格者の基準点や入学後の学業において必要な基礎学力を担保するために必要なレベルを目標に設定しております。今後も、合格者の入学後の学生の学修状況や成績等を追跡しつつ、継続して検討してまいります。

また、口述試験を通じて「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」など多方面から評価することで、多様な人材の入学を図っております。

- ・地域枠についての考えをしっかりと示して欲しい。

⇒金沢大学の回答：学校教育学類では、石川県における小学校教員養成の占有率を上げることを目標としております。しかし、学校教育学類へ入学する学生は石川県に限定されないこと、他大学に比べて募集定員が少ないことから、これまでの入試の枠組みだけでは目標達成が困難となることが懸念されたため、「石川県教員希望枠」を設定しました。

医学類では、文部科学省及び厚生労働省の施策に支えられ、地域医療の偏在解消のため、地域で活躍する医師を確保することを目的に地域枠を設定しております。また、各自治体とも協議しながら、地域医療を担う医師の数と質（診療科の偏在の解消など）を担保すべく努力しております。それらに基づき、地域枠の募集人員、入試内容などを設定しております。

- ・グローバル人材育成に対し、更なる IT ツールの活用を推進したら良いと考える。  
(海外の他大学との ZOOM による教育機会の増加など)

⇒金沢大学の回答：1 年半に亘るコロナ禍の経験を経て、学生・教職員の ICT スキルは格段に向上し、Zoom 等の Web 会議システムや動画コンテンツはもはや対面授業の代替ではなく、より学修成果を向上させるための必須のツールとして定着しております。本学公式の海外研修オンラインプログラムや、二重学位（ダブル・ディグリー）プログラムでは、留学生が母国にいながら本学の授業を履修、研究指導を受けることができるなど、多方面で活用が進んでいます。

また、ICT ツールの活用に加え、学士課程、大学院課程共にデータサイエンス教育を強化しております。Society 5.0 時代が到来する中で、AI、IoT、ビッグデータといった情報技術や ICT 技術を使いこなす能力を身に付け、グローバル社会で活躍できる金沢大学ブランド人材を育成します。

- ・一つの提案だが、金沢大学のアカンサスポータルで「被験者や被調査者募集」の掲示板を作っただけだと、アンケートや実験でデータを取らなければならない学生にとって有難い。特に人に関わる研究をしている方において、被験者の募集が難しいと感じている方が多いようである。コロナ禍で一部の授業はネットで受講することによって、友達と出会う機会も少なくなった。そのため、被験者や被調査者を見つけることができず、修士論文のデータ収集が大変なようだ。アカンサスポータルで、調査や実験の被験者募集情報を掲載できるリンクを作っただけだと助かるので、検討いただきたい。

⇒金沢大学の回答：アカンサスポータルには、教職員が作成可能なメッセージ・掲示板機能があり、これらの機能を利用した研究協力者の募集が可能です。実際に、これらの機能を活用して研究協力者を募集している研究もあります。なお、メッセージ・掲示板機能は、教職員のみ作成・発信が可能であるため、学生が利用する場合は、指導教員にご相談ください。

- ・私が通学する鶴間キャンパスでは、コロナの影響で学生同士で学び合うことができる環境が少なくなった。第3クォーターから対面講義が始まるとのことだったので、それに合わせてフリースペース等の机、椅子などの設置数を増やしていただきたい。

⇒金沢大学の回答：フリースペース等の机、椅子については、今後の全学及び医薬保健学域の新型コロナウイルス感染症対策方針に基づき、制限が緩和されるようであれば元の設置数へ復旧することを検討しますが、保健学類学生が医療機関等での実習を行う事情に鑑み、学類内での感染拡大につながらないよう慎重に検討したいと考えております。

- ・私自身、学業や研究において恵まれた環境であると感じており、日頃から感謝している。しかし、施設の利用に関して意見がある。学業や研究をする上で健康に気をつかうことは重要であると感じている。しかし、去年の春からトレーニングジムの利用ができなくなり、運動をする機会が減ってしまった。勿論、感染拡大防止のため、トレーニングジムの閉鎖は必要と考えるが、今後ワクチン接種が進むにあたって再開の目処はあるか。

⇒金沢大学の回答：トレーニングルームの利用は、学内での活動の中で、特に感染リスクが高い活動と判断しております。ワクチン接種を2回完了した学生も多いですが、変異株の流行や接種できない者もあり、授業以外でのトレーニングルームの利用は、今後の感染状況を見ながら、徐々に元の状態への回復を、慎重に判断したいと考えております。

- ・ハイブリッド型の授業の場合、どの授業がオンラインでどの授業が対面なのか混乱することが多く、不便である。教授からの連絡もなかったり直前だったりするので、出席し損ねてしまうことがある。

⇒金沢大学の回答：授業の実施形態については対面，オンラインに限らずシラバス上で学生に周知を行うこととしており，特に，ハイブリッド型の授業については，学生毎に，あるいは授業の実施回ごとに対面，オンラインの対象が変わる場合もありますので丁寧な情報提供を授業担当教員に指示いたしました。  
また，令和3年度の第3クォーターの授業開始に際し，非常勤講師を含むすべての授業担当教員にシラバスやアカンサスポータルを通じ，履修学生に対し，改めて丁寧かつ速やかに情報提供を行うよう指示いたしました。

- ・コロナウイルスのワクチン接種によって副反応の重症者や死者などが発生した場合，大学としてはどのように対応するのか。

⇒金沢大学の回答：本学の職域接種では安全性を十分に考慮し，副反応に対応する専任医師の配置や附属病院との救急体制を構築した上で実施しました。  
なお，職域接種実施期間において，副反応による重症者や死者などは発生しておらず，無事終了することができました。

- ・新しくできた融合学域の入試で定員割れが発生したそうだが，今後の対策などは考えているか。

⇒金沢大学の回答：融合学域は前期日程志願倍率 3.53 倍の高倍率で，定員割れは発生しておりません。  
引き続き，全学的には Web サイトによる情報発信に加え，パンフレット等の作成，説明会の実施等の広報活動を積極的に行ってまいります。また，コロナ禍による対面での PR 不足を補うため，春季及び夏季 Web キャンパスビジットはオンラインで，高校との懇談会は対面とオンラインによるハイブリッド形式等で開催し，学類紹介などを集中的に発信してまいりました。秋以降も対面型キャンパスビジットなどで学類の魅力を伝える募集活動を実施してまいります。

※参 考

融合学域先導学類 定員 55 名（一括入試 6 名含む）

全選抜志願者：146 名，入学者 55 名（一括入試入学者除く）

- ・金沢市公共シェアサイクル「まちなり」の料金が安く，電動アシスト自転車で坂道などの走行も非常に楽で，大変便利に感じている。坂道が多い金沢大学角間キャンパス内にも「まちなり」のポート設置は可能か。

⇒金沢大学の回答：「まちなり」のポート設置については，大学として安全面や設置によるメリットやデメリットを検討する必要があるほか，「まちなり」の実施主体である金沢市等との協議が必要となります。



発行・編集 金沢大学総務部  
〒920-1192 金沢市角間町 電話 076-264-5010